

宮竹学区社会福祉協議会たより

つなげよう地域の輪

つらなり

第17号

令和元年7月23日発行
宮竹学区社会福祉協議会
広報啓発部会

お年寄りにやさしい宮竹っ子

宮竹小学校

宮竹小学校4年生は、総合的な学習の時間で「福祉」をテーマに学習を進めてきました。その一環として地域の老人福祉施設を何度か交流訪問させていただきました。近年、お年寄りと話ず機会が少ない子供が増えているため、訪問当初は、緊張してうまく話せない子供がたくさんいました。そんな中、訪問の先々で多くのお年寄りの方が、子供たちを温かく迎え、笑顔で接してくれたため、訪問を重ねるにつれ、話すことにも慣れ、活発な

<福祉学習のふり返り>

ぼくは、福祉のことを学習して、やっぱりお年寄りの方を大切にしようと思いました。認知症のお年寄りの方はすごく大変だと思うし、そうじゃない人もきっと大変だろうし、ぼくだっておばあちゃんがいるので、できるだけ今のうちにいっぱいお話をし、してあげようと思いました。

自分の考える福祉とは、人を支えるものだと思います。障害を持つ方やお年寄りの方はやっぱり自分も大変だと思うからそれをより幸せにするのが福祉だと思います。もし自分も障害を持ったことを想像すると困って、生活も不便になるから、福祉はそういう方々を支えていくことだと思います。

4年2組 金原 晴喜

交流ができるようになってきました。また「もっと声を大きくしないとお年寄りには聞こえないのでは?」とか「立つのが大変なお年寄りのことを考えてゲームを工夫しよう!」など、相手のことを考えた意見も多く出されるようになり、「福祉」に対する意識も高まっていきました。

これからも、地域のお年寄りの方々といろいろな場面で交流していきたいと思えます。よろしく願い致します。



公園カフェ

地域の憩いのサロン

櫻井 孝一

公園カフェという「公園でコーヒーを飲むの?」と思うかもしれませんが、地域の人たちの交流の場、憩いのサロンです。名前の由来は高松2丁目の神明原公園愛護会の皆さんが花壇の手入れなどの公園整備の後、お茶を飲み、お喋りをして慰労したのが始まりです。その後公園カフェとして独立して開くようになり、早いもので10年以上続いています。現在は毎月第1日曜日の午後に高松公民館(本町)で開いています。楽しいカフェにしようと、高松1・2丁目の10人ほどのボランティアが工夫を凝らしています。ハーモニカ伴奏での歌、体操、ゲーム、講演など幅広い内容になっています。季節の行事を取り入れ、1月は懐かしいお正月の遊び、春は神明原公園で桜を見ながらお弁当やゲーム、夏には七夕飾り作りなどを行っています。「まだ自分は参加するには早い」と思っている方もいると思いますが、今の健康をいつまでも維持し、地域の皆さんと楽しい時間を過ごしましょう。老若男女どなたでも参加できます。お気軽に参加して下さい。



満開の桜の下でお花見弁当



ラダーゲッターのゲームを楽しむ



包括支援センターの介護保険の話

「ほっとひといき宮竹」のボランティアとして

服部 敏子

「ほっとひといき宮竹」は皆さんがいつまでも健康を維持するために静岡市が推奨しているS型デイサービス(高齢者サロン)で宮竹1・2丁目公民館で月2回行っています。

このサロンにボランティアとして参加し、早くも6年目になりました。以前は保育園や介護施設で寸劇などのボランティアをしていました。このようなボランティアは初めてで、S型とは何?ボランティアとして何をしたらよいの?と戸惑うことが多々ありました。初代の野村会長の下、回を重ねるにつれ参加者の方々とボランティアとの交流が深まり、特に点数を争うゲームでは顔つきは真剣そのもの。笑い声が公民館中に響き渡ります。見る・聞く・話す・行動するなど、心身の健康維持のため楽しい集いとなっています。

人生100年時代といわれている今、高齢者の方が生きている実感を持てるよう、現松井会長の言われる「できる事を、できる時に」をモットーにこれからも会の運営に携わっていきたいと思っています。



全員集まって事前打ち合わせ



お茶菓子の袋詰め



服部さんによる顔の体操

宮竹町内会豆まき大会

宮竹1・2丁目町内会 前副会長 菊岡 和人

町内会と子供会の協賛で宮竹1・2丁目公民館で行っている行事です。豆まきと銘打っていますが、お菓子まき会です。今年で3回目を迎え、町内事業所からお菓子の寄付もいただき、大きなイベントになってきました。

豆まき当日の2月3日は天気も良く、小さいお子さんから大人まで大勢の方が参加してくれました。未就学児の部では鬼の登場にびっくり！泣き出しそうな子もいました。心優しい鬼は「みんなと仲良くしたいよ～」と困った様子。“鬼のパンツ”ダンスをみんなで踊り仲直り。「仲直りのしるしにお菓子をまくよ～」と鬼も一緒にお菓子をまいてちびっ子たちは大興奮。家から持ってきた袋一杯にお菓子をもらいニコニコ顔でした。

小学生以上の子どもたちは公民館の外で待機。豆まきの由来を説明中も待ちきれない様子。お菓子をまき始めると無我夢中で拾っていました。大きい子は小さい子に気を使っている様子もほほ笑ましい光景でした。大人たちも童心に帰って楽しんでいて、お子さんからお年寄りまで楽しめる貴重な行事でした。



まず未就学児に室内で豆まき



次に公民館の外で小学生以上に



室内のイラストや飾り付け

海外から技能実習生が私たちの町に

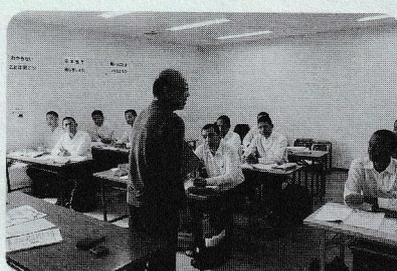
海外からの若者たちが学区の体育祭や防災訓練に参加し、地元のスーパーで買い物をしているのを見かけます。若者たちは国際研修援護会研修センターで技能研修を受けている実習生です。センターは中田から敷地2丁目に3年前に移転してきました。

センター長の慶徳さんに話を伺いました。

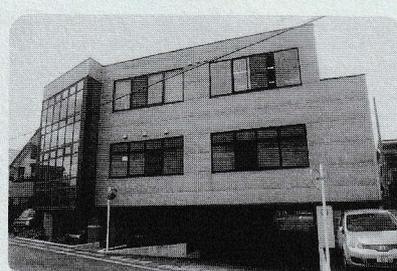
実習生はここで、「日常会話、日本の生活習慣、企業での心構え、安全衛生、作業用語」などの基本教育を受けたのち、全国の受け入れ企業に配属となります。実習生は18～25歳のインドネシア人・ベトナム人がほとんどで、常時40人ほどが「禁酒・禁煙・携帯電話禁止」などの厳しい規則の下、共同生活をしています。滞在期間は約1ヶ月で月～金曜日の日中はカリキュラムに従って授業がみっちりに行われ、夕方の食事の買い出しと、土・日の昼間に外出ができます。実習生は簡単な日本語が話せます。「入国後最初の滞在地となる宮竹学区での生活が良い思い出となるように、地域の皆さんが暖かく接していただければありがたい」と慶徳さんは話されました。



2クラスに分かれて実習



授業は日本語で



国際研修援護会研修センター

下島北集会所が完成

地域の皆さんが待ちに待った下島北集会所が下島北公園に完成し、4月14日に竣工式が行われました。静岡市が管理する公園に集会所が併設されるのは初めてのことです。

さかのぼれば、長年にわたり公園内集会所建設の要望を市にしてきましたが、前例がないとのことで、当時は断念を余儀なくされました。しかし自治会顧問をはじめ、自治会役員、地元の方々の集会所建設への思いは強く、熱心な交渉が繰り返されてきました。その結果行政も“自由な発想による公園の利用の促進”という国の考えを踏まえ、先進事例として集会所整備を進めることになりました。

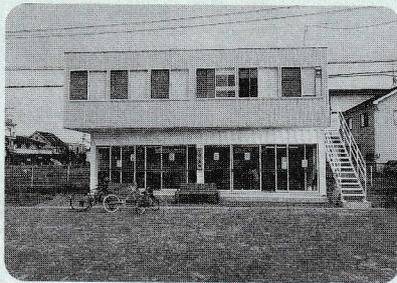
集会所は鉄骨2階建てで、延床面積約80平方メートル、1階は「下北一番館」としてテーブル・椅子・本箱を配置し、誰でも気軽に立ち寄ることができるよう土間の作りになっています。2階には給排水の設備・冷蔵庫・テレビ・トイレなどが備えられ、会議や打ち合わせなどができるよう整えられています。

誰もが気軽に集まり交流できる場所、安心して過ごせる地域の安らぎの居場所として下島北集会所・下北一番館が皆さんに親しまれることを願っています。

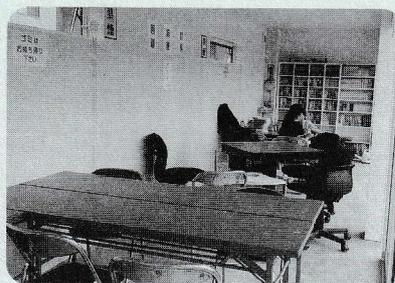
運用方法は、

- *集会所には管理人を置き、開錠・施錠及び日々の館内点検・利用者の把握。
- *開館は週5日、10時から17時まで。月曜・木曜は休館。

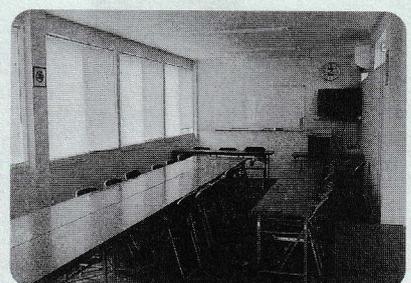
なお静岡市の規制緩和により、高松2丁目自治会でも高松神明原公園内に集会所建設の計画が進められています。集会所は木造2階建て、建築面積約66平方メートル、令和2年度完成の予定です。集会所が完成すれば会議やサロンとしての利用だけでなく、公園全体がより一層多様に使用できるようになります。



下島北集会所外観



1階は下北一番館として多目的に



2階は集会所として会議などに

慣れ親しんだ「町内会」から「自治会」に名称変更

平成20年頃から、静岡市自治会連合会の呼びかけにより静岡市内の自治組織は名称を町内会から自治会に変更してきました。他の自治組織では既に自治会という名称を使用しています。宮竹学区でも元号が令和に変更になったのを機に、宮竹学区内6町内会（宮竹は1・2丁目です）全てで、自治会に名称が変更になりました。正式に名称変更するには町内会によっては静岡市への届け出が必要であり、変更時期は多少のばらつきがありますが、加藤連合自治会長は、「この4月から通常使う名称は、全て自治会に変更してください」と話していました。

これかも自治会としてさらに発展させていきたいと思います。